

次期滋賀県教育振興基本計画諮問の背景

滋賀の教育 が目指すもの

1 一人ひとりの「個性」を大切に、どのような状況でも柔軟に対応できる生きる力が重要

2 人の夢と生きる力が重要で、夢に向かって何かをやり遂げる力が必要

3 物事の意味や意義をとらえ、自分がしたいことを考えることが「夢」、そのために自らの力で考え、課題を解決することが「生きる力」

33 滋賀の教育が最上位を目指す目的は、滋賀らしいものに

手段

4 十人十色の個性を大切にし、その組合せから新しいものが生まれる

5 何を問題にするかは人それぞれで異なり、それも個性

6 一人ひとりに適切な課題を与え、悩み、考えさせることが大切

34 重点的に取り組んでいくことを明確にしていくべき

35 まずは、これから長く生きる子どもを

7 AIではできない、「こころ人間」という部分を伸ばす

8 人がAIに勝る点である「意味の理解」「考えること」ができなくなりつつある

9 機械は言葉の本質的な意味を理解できない。そこに人間のすべきことがある

10 相手がどう思うか、どう感じているかということを読み、考える想像力が大切

11 ICTを活用する教育と人との関わりの中での教育を並行して準備していく必要がある

12 自分の課題に気付き自分で実現する力

13 一定の知識をつけ、知識を駆使する力が大切

14 知ろうとするプロセスの中での学びが大切

15 教育として大切なことは「心」を育て、「教養」を身に付けること

16 思いやる心が豊かな心につながる

17 しなやかな心や折れない心が大切

18 悩みをエンジョイできる心

19 滋賀に来る人、滋賀を通る人、さらには琵琶湖の下流にいる人のことを理解する心

20 琵琶湖をはじめとした自然や歴史から学ぶ

21 滋賀に根付く近江の心は大切にしていきたい

22 甲子園での応援のように、学校と地域が丸となる滋賀らしさを伸ばすべき

23 家庭等への支援に教育委員会や学校だけでなく、いろいろな人たちが関わっていくべき

24 人生100年時代では、60歳からの学びも必要

25 20年教育も大切だが、大人の学びや、生涯学び続ける視点がいる

基盤となること

26 いろいろな人がいて、それぞれに対応できる社会が必要

27 それぞれが自分の個性を描き、認め合える社会が必要

28 夢と生きる力を育むことが大切だが、親である大人たちが疲弊しているなど、大人たちが満たされていない

29 働き方改革は教え方革命

36 目指すもの、取り組むことのベースがある

30 愛、生死、宗教、平和について、社会全体で学んではどうか

31 宗教は人間にとって大切なことで、だからこそ続いてきた

32 生きている価値を考えることが必要ではないか